

BIOS セットアップ (AMD 800 シリーズ)

BIOS セットアップ	2
起動画面	3
メインメニュー	4
Smart Fan 6	6
Favorites (F11)	8
Tweaker	9
Settings	13
System Info.	22
Boot	23
Save & Exit (保存して終了)	26



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なる場合があります。。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワーオンセルフテスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または Q-Flash Plus ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- Q-Flash Plus では、システムの電源が切れているとき (S5シャットダウン状態) に BIOS を更新することができます。最新の BIOS を USB メモリに保存して専用ポートに接続すると、Q-Flash Plus ボタンを押すだけで自動的に BIOS を更新できます。

Q-Flash および Q-Flash Plus ユーティリティの使用に関する使用説明については、GIGABYTE のウェブサイトの「独自機能」ページに移動し、「BIOS Update Utilities」を検索してご参照ください。



- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定をすると、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。
- CMOS 値を既定値にリセットする方法は、取扱説明書のバッテリー / クリア CMOS ジャンパー / ボタンの項目を参照するか、本書の「Load Optimized Defaults」項目を参照してください。

起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。(画面はマザーボードによって異なる場合があります。)



機能キー：

: BIOS SETUP/Q-FLASH

<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入り、BIOSセットアップでQ-Flashユーティリティにアクセスします。

<F12>: BOOT MENU

起動メニューにより、BIOS セットアップに入ることなく第 1 起動デバイスを設定できます。起動メニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を用いて第 1 起動デバイスを選択し、次に <Enter> キーを押して確定します。システムはそのデバイスから起動します。

注：起動メニューの設定は 1 回のみ有効です。システム再起動後のデバイスの起動順序は BIOS セットアップの設定の順序となります。

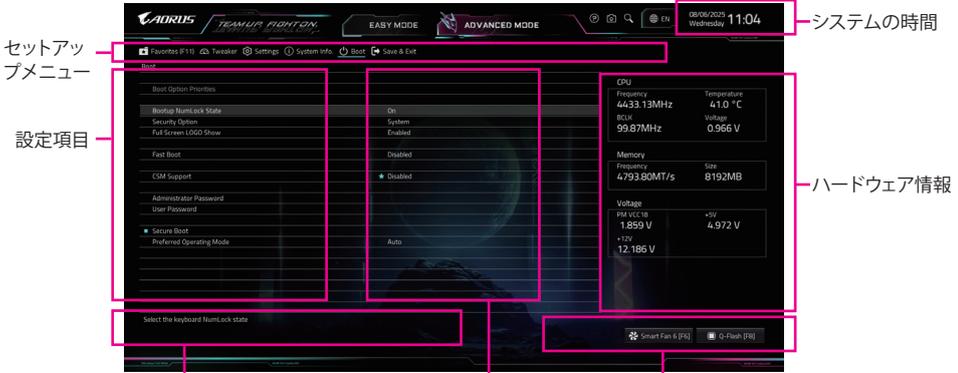
<END>: Q-FLASH

<End> キーを押すと、先に BIOS セットアップに入る必要なく直接 Q-Flash Utility にアクセスします。

メインメニュー

Advanced Mode

Advanced Modeは、詳細なBIOS設定をすることができます。キーボードの矢印キーを押すことにより設定項目を切り替えることができ、<Enter>を押すことでサブメニューに入ります。また、マウスを使用して項目に選択することもできます。



設定項目の説明

現在の設定

クイックアクセスバーを使用すると、Smart Fan 6 または Q-Flash 画面にすばやく移動できます。

Advanced Mode のファンクションキー

<←><→>	選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。
<↑><↓>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>/Double Click	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+><Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<-><Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F1>	ファンクションキーについての説明を表示します。
<F2>	Easy Mode に切り替えます
<F3>	現在のBIOS設定をプロファイルに保存する。
<F4>	以前に作成したプロファイルからBIOS設定をロードします。
<F5>	現在のメニュー用に前のBIOS設定を復元します。
<F6>	Smart Fan 6の画面を表示する。
<F7>	現在のメニュー用に最適化されたBIOSの初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。
<F11>	Favorites (お気に入り) サブメニューに切り替える。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。
<Insert>	お気に入りのオプションを追加または削除する。
<Ctrl>+<S>	取り付けられているメモリの情報を表示します。
<Esc>	メインメニュー: BIOS セットアッププログラムを終了します。サブメニュー: 現在のサブメニューを終了します。

Easy Mode (Easy モード)

Easy Mode は、迅速に現在のシステム情報を表示したり、最適なパフォーマンスを引き出すために調整を行うことができます。Easy Mode とAdvanced Mode の画面に切り替えるには、<F2>キーを押して簡単に切り替えることができます。



Smart Fan 6



ファンクションキー<F6>を使用して、この画面にすばやく切り替えます。この画面では、各ファンヘッダのファン速度関連の設定や、システム/CPUの温度監視を行うことができます。

☞ TUNE ALL

現在の設定をすべてのファンヘッダに適用します。

☞ Temperature

選択された領域の、現在の温度を表示します。

☞ Fan Speed

現在のファン/ポンプ速度を表示します。

☞ Flow Rate

水冷システムの流量を表示します。**Fan Speed** 項目で<Enter>キーを押すと、この機能に切り替わります。

☞ Fan Speed Control

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

▶▶ Normal CPU温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。

▶▶ Silent ファンを低速で作動します。

▶▶ Manual グラフ上の基準点をドラッグしてファンの回転数を調整することができます。またはEZ Tuning機能を使用することもできます。基準点の位置を調整した後、**Apply**を押すと、自動的にカーブの傾きが計算されます。

▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

☞ Fan Control Use Temperature Input

ファン速度コントロール用の基準温度を選択できます。

☞ Temperature Interval

ファン速度変動用の温度間隔を選択できます。

☞ FAN/PUMP Control Mode

▶▶ Auto BIOSは、取り付けられたファンのタイプを自動的に検出し、最適の制御モードを設定します。

▶▶ Voltage 電圧モードは、3ピンのファン/水冷ポンプ用ファンです。

▶▶ PWM PWMモードは、4ピンのファン/水冷ポンプ用ファンです。

☞ **FAN/PUMP Stop**

Fan/Pump Stop 機能を有効または無効設定することができます。温度曲線を使用して温度制限を設定できます。ファンまたはポンプは、温度が限界値より低いと動作を停止します。

☞ **FAN/PUMP Mode**

ファンの動作モードを設定します。

- ▶ Slope 温度に応じてファンの回転数をリニアに調整します。
- ▶ Stair 温度に応じてファンの回転数を段階的に調整します。

☞ **FAN/PUMP Fail Warning**

ファン/水冷ポンプ用ファンが接続されている状態で異常が発生した場合、システムは警告を知らせます。警告があった場合、ファンポンプの状態またはファンポンプの接続を確認してください。

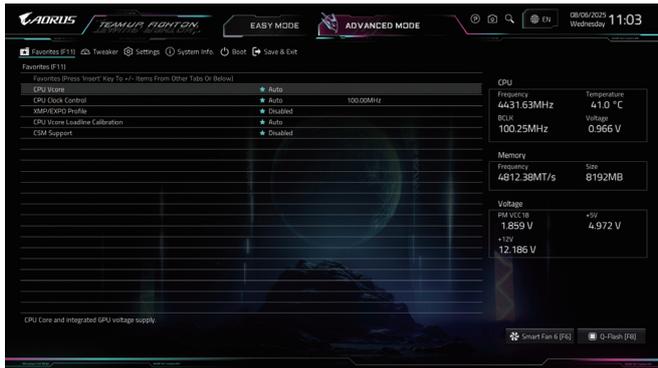
☞ **Save Fan Profile (F3)**

この機能により、現在の設定をプロファイルに保存できるようになります。BIOS 上のプロファイルを保存するか、**Select File in HDD/FDD/USB** を選択して、ストレージデバイスにプロファイルを保存することができます。

☞ **Load Fan Profile (F4)**

この機能を使用すると、BIOS設定を再設定する手間を省き、以前に保存したBIOS上のプロファイルを読み込むことができます。または、**Select File in HDD/FDD/USB** を選択して、ストレージデバイスからプロファイルを読み込むことができます。

Favorites (F11)



よく使うオプションをお気に入り設定し、<F11>キーを押すと、すべてのお気に入りオプションがあるページにすばやく切り替えることができます。お気に入りのオプションを追加または削除するには、元のページに移動してオプションの<Insert>を押します。「お気に入り」に設定すると、オプションに星印が付きます。

Tweaker



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させると、CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。（誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。）

☞ CPU Clock Control

CPUベースクロックを 0.01 MHz 刻みで手動で設定します。

重要：CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

☞ Async CPU/PCIe Clock

CPU/PCIe の非同期クロックを可能にします。

☞ CPU Ratio Mode

すべてのCPUコアまたは個々のコアの倍率を設定できます。

☞ CPU Clock Ratio

取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。

☞ Active OC Tuner

Active OC Tuner 機能を有効または無効にします。

☞ X3D Turbo Mode 2

X3D Turbo 機能対応 CPU 使用時に、X3D Turbo モードを調整できます。選択したモードに応じて、システム負荷を動的に監視し、ゲーム性能を向上させます。性能の向上は、使用する CPU とメモリによって異なります。

☞ GFX Clock Frequency

GPUの周波数を変更できます。

注：調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。



BIOS の設定の中には、マザーボードのチップセットと使用する CPU / メモリがその機能をサポートしている場合のみ利用できるものがあります。AMD CPU の固有機能の詳細については、AMD の Web サイトにアクセスしてください。

Precision Boost Overdrive(PBO) Enhancement

CPU 温度 90/80/70°C の3つのターゲットに対して5段階のブーストレベルを提供します。最適な温度制限とブーストレベルの組み合わせを選択することで、より高いCPU 周波数を実現します。注: CPU の状態によって、実行可能な設定や結果が異なります。

ECO Mode

CPU 制御の制限を調整し、指定された熱設計電力範囲内で動作するようにできます。選択した電力レベルに応じて、対応するマザーボードと冷却手段が必要です。

Advanced CPU Settings



Core Performance Boost Ratio

コアパフォーマンスブースト (CPB)技術の有効/無効の設定をします。

SVM Enable

仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。

PSS Support

ACPI_PPC、_PSS、および _PCT オブジェクトの生成を有効または無効にします。

PPC Adjustment

CPU の PState を固定できます。

Global C-state Control

CPUのC ステート状態の設定ができます。有効に設定した場合、CPUコアの周波数をシステム低負荷時に減少させ、消費電力を低減させます。

Power Supply Idle Control

Package C6 Stateを有効または無効にします。

▶▶ Typical Current Idle この機能を無効にします。

▶▶ Low Current Idle この機能を有効にします。

▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。

SMT Mode

CPU Simultaneous Multi-Threading 機能を有効または無効に設定できます。

■ **Precision Boost Overdrive**

CPUのクロックと動作性能を自動的に上げるかどうかを設定します。

☞ **Power Slow Slew Rate**

Power Slot Slew Rate の異なるレベルを選択可能です。

☞ **DDR5 Auto Booster**

DDR5 Dynamic Turbo Boost 機能を有効または無効にします。この機能により、デフォルトの周波数とブーストされた周波数を自動的に切り替えることができます。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に構成します。

☞ **XMP/EXPO Profile**

有効にすると、BIOSがXMP/EXPOメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。XMP または EXPO メモリーモジュールを装着した場合のみ選択可能です。

☞ **EXPO AI BOOST**

オペレーティング・システム (OS) 内で AORUS AI SNATCH ソフトウェアを使用して、メモリ・パフォーマンスの強化を設定できます。

☞ **XMP/EXPO High Bandwidth Support**

高帯域幅メモリモードを有効または無効にする。XMP または EXPO メモリーモジュールを装着した場合のみ選択可能です。

☞ **Core Tuning Config**

さまざまな使用ニーズに合わせてプロセッサコアのチューニングに関連する設定を選択できます。

☞ **System Memory Multiplier**

システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。Auto は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。

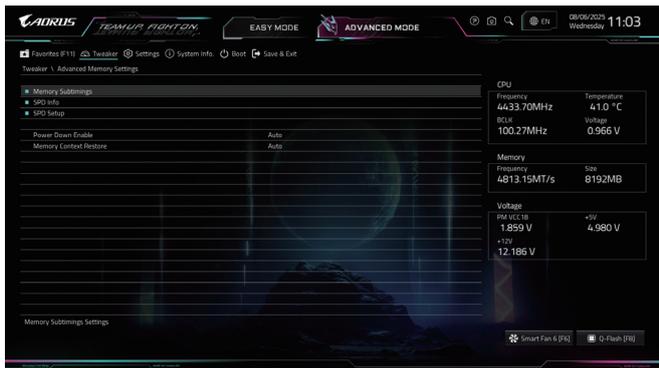
☞ **Infinity Fabric Frequency and Dividers**

FCLKの周波数を設定できます。

☞ **UCLK DIV1 MODE**

UCLK DIV1 モードを指定できます。

■ Advanced Memory Settings



■ Memory Subtimings

▼ Standard Timing Control/Advanced Timing Control/CAD Bus Configuration

これらのセクションでは、メモリのタイミング設定を変更できます。注：メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

■ SPD Info

取り付けられているメモリの情報を表示します。

■ SPD セットアップ

搭載されているメモリのパラメータを設定することができます。

○ Power Down Enable

Power Down のサポートを有効または無効にします。

○ Memory Context Restore

メモリコンテキストのリストアモードを設定できます。有効にすると、DRAM の再トレーニングが可能な限り回避され、POST レイテンシが最小化されます。

○ CPU Vcore/Dynamic Vcore(DVID)/VCORE SOC/Dynamic VCORE SOC(DVID)/CPU_VDDIO_MEM/DDR_VDD Voltage/DDR_VDDQ Voltage/DDR_VPP Voltage

これらの項目で CPU Vcore とメモリ電圧を調整することができます。表示される項目や値は、マザーボードのチップセットや使用する CPU によって異なる場合があります。

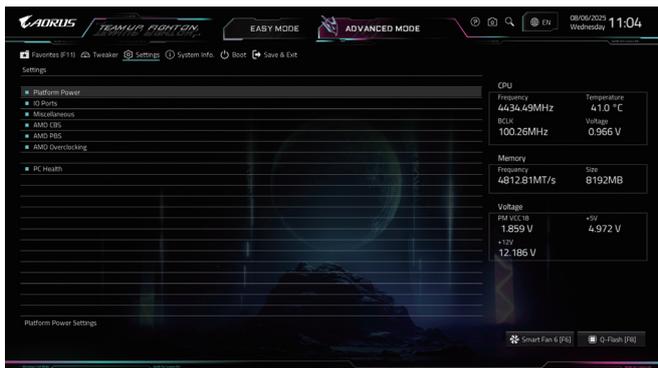
■ Advanced Voltage Settings

VDDP やその他の電圧設定を調整可能です。

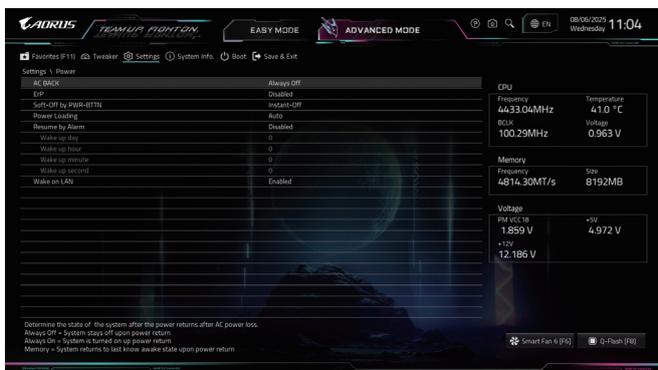
■ CPU/VRM Settings

このサブメニューでは、負荷線校正(Load-Line Calibration)レベルを設定できます。

Settings



■ Platform Power



○ AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

- ▶▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。
- ▶▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
- ▶▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。

○ ErP

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。

注: この項目が **Enabled** に設定されているとき、Resume by Alarm 機能は使用できなくなります。

○ Soft-Off by PWR-BTTN

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

- ▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。
- ▶▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを4秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して4秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

○ Power Loading

タミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

Resume by Alarm

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください：

▶▶ Wake up day: ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。

▶▶ Wake up hour/minute/second: 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注：この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたはAC電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。

Wake on LAN

Wake on LAN機能の有効/無効を切り替えます。

IO Ports



Initial Display Output

取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

▶▶ IGD Video 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。(この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。)

▶▶ PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。

Integrated Graphics

オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。

▶▶ Auto グラフィックスカードがインストールされているかによって、BIOSはオンボードグラフィックスを自動で有効または無効にします。

▶▶ Forces オンボードグラフィックスを有効にします。

▶▶ Disabled オンボードグラフィックスコントローラを無効にします。

UMA Mode

UMAモードを指定する。

▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。

▶▶ UMA Specified UMAフレーム・バッファの大きさを設定します。

▶▶ UMA Auto ディスプレイ解像度を設定します。

▶▶ UMA Game Optimized 合計システムメモリ容量に基づいてフレーム・バッファの大きさを調整します。

Integrated Graphics が **Forces** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **UMA Frame Buffer Size**

フレームバッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラに対してのみ割り当てられたシステムメモリの合計量です。例えば、MS-DOSはディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプション：Auto (既定値)、64M-16G。UMA Mode が UMA Specified に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **HD Audio Controller**

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製拡張オーディオカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。

☞ **PCIEX16 Bifurcation**

PCIEX16 スロットの帯域幅をどのように分割するかを決定できます。調整可能な範囲は、CPUにより異なる場合があります。

☞ **USB4/M2B_CPU Switch**

USB4® USB Type-C® ポートと M2B_CPU スロットの帯域幅切り替えを設定できます。

☞ **Above 4G Decoding**

64 ビット対応のデバイスは、4 GB 以上のアドレス空間でデコードすることができます。(お使いのシステムが 64 ビット PCI デコードをサポートしている場合のみ)。Enabled (有効) 設定にした場合、複数の高度なグラフィックスカードが使用されている場合、オペレーティングシステムを読み込み中に起動することができない場合があります (4 GB制限の仕様のため)。

☞ **Re-Size BAR Support**

Resizable BAR のサポートを有効または無効にします。

☞ **SR-IOV Support**

Single Root I/O 仮想化 (SR-IOV) のサポートを有効または無効にする。

☞ **Onboard LAN Controller**

オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。

☞ **Onboard WIFI Controller**

オンボードWIFI機能の有効/無効を切り替えます。

■ **Discrete USB4 Features**

USB4 サポートの調整、ファームウェア・バージョンの表示、XHCI ポート速度、USB4/TBT プート遅延、PCIe FPB サポート、S3 電源状態での PCIe フォールバック・モードなどの設定など、Discrete USB4 コントローラに関連するさまざまな機能を構成できます。

■ **Gigabyte Utilities Downloader Configuration**

☞ **Gigabyte Utilities Downloader Configuration**

OSに入ってから自動的にGIGABYTE Control Centerをダウンロードして、インストールするかどうかを判断することができます。インストールの前に、システムがインターネットに接続されていることを確認してください。

■ **USB Configuration**

☞ **Legacy USB Support**

USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。

☞ **XHCI Hand-off**

XHCI/ハンドオフに対応していないOSでも、XHCI/ハンドオフ機能を有効/無効に設定できます。

- **USB Mass Storage Driver Support**
USBストレージデバイスの有効/無効を切り替えます。
- **Port 60/64 Emulation**
入出力ポート 64h および 60h についてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。MS-DOS または USB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムで USB キーボードまたはマウスをフル レガシ サポートするにはこれを有効にします。
- **Mass Storage Devices**
接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスが接続された場合のみ表示されます。
- **NVMe Configuration**
取り付けられている場合、M.2 NVMe PCIe SSD に関する情報を表示します。
- **SATA Configuration**
- **SATA Mode**
チップセットに統合されたSATAコントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。
 - ▶ RAID SATAコントローラーに対してRAIDモードを有効にします。
 - ▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバがNCQ (ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。
- **NVMe RAID mode**
M.2 NVMe PCIe SSDを使用してRAIDを構成するかどうかを設定できます。
- **Chipset SATA Port Enable**
統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。
- **Chipset SATA Port Hot plug**
各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。
- **Chipset SATA Port**
接続されているSATAデバイスの情報を表示します。
- **Network Stack Configuration**
- **Network Stack**
Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。
- **IPv4 PXE Support**
IPv4PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- **IPv4 HTTP Support**
IPv4のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- **IPv6 PXE Support**
IPv6PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- **IPv6 HTTP Support**
IPv6のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

↳ **PXE boot wait time**

PXEブートをキャンセルするための、<Esc>キー入力待ち時間を設定できます。**Network Stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

↳ **Media detect count**

外部メディアの存在を確認する回数を設定できます。**Network Stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

■ **Ethernet Controller / PCIe GBE Family Controller**

このサブメニューは、LAN 構成と関連する構成オプションの情報を提供します。

■ Miscellaneous



○ LEDs in System Power On State

システムの電源が入っているときに、マザーボードのLED照明を有効または無効にすることができます。

- ▶ Off システムがオンのときに、選択した照明モードを無効にします。
- ▶ On オンシステムがオンのときに、選択した照明モードを有効にします。

○ RST (MULTIKEY)

システム・リセットボタンの機能を設定できます。

- ▶ HW Reset このボタンを使用して、システムをリセットします。
- ▶ LED On/Off このボタンを使用して、マザーボードのLEDをオン/オフします。
- ▶ BIOS Setup このボタンを使ってBIOSセットアップに入ります。
- ▶ Safe Mode このボタンを使用して、システムをセーフモードで起動します。

○ PCIEX16 Slot Link Speed

PCIEX16 スロットの動作モードを設定します。実際の操作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。

○ PCIEX8 Slot Link Speed

PCIEX8 スロットの動作モードを設定します。実際の操作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。

○ PCIEX4 Slot Link Speed

PCIEX4 スロットの動作モードを設定します。実際の操作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。

○ PCIe Slot Link Speed

PCI Express スロットおよび M.2 コネクタの動作モードを設定します。実際の操作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。

○ PCIe ASPM Mode

CPU/チップセットのPCI Expressバスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。

○ 3DMark01 Enhancement

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。

○ IOMMU

AMD IOMMUサポートの有効/無効を切り替えます。

↳ **Panel Brightness**

マザーボード上の LCD パネルの輝度を設定します。この項目は LCD パネルを搭載したモデルのみに存在します。

↳ **TSME**

TSME のサポートを有効または無効にします。

↳ **Trusted Platform Module**

Trusted Platform Module (TPM) を設定できます。

▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。

▶▶ Disabled この機能を無効にします。

▶▶ Enable dTPM SPI_TPM ヘッダーにインストールされている TPM モジュール(オプション)によって提供される TPM 機能を有効にします。

▶▶ Enable ASP fTPM AMD CPU fTPM を有効にします。

▶▶ Enable Pluton fTPM Pluton TPM 機能を有効にします。

■ **Trusted Computing**

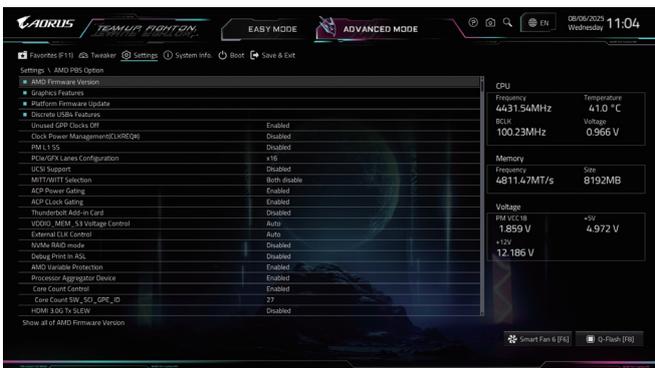
Trusted Platform Module (TPM) を有効または無効にします。

■ AMD CBS



このサブメニューには、AMD CBS関連の設定オプションがあります。

■ AMD PBS



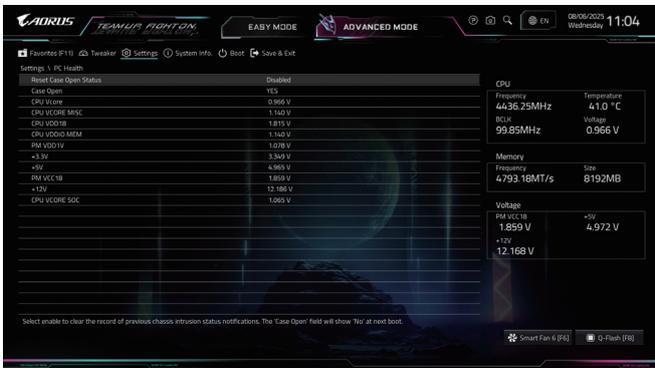
AMD プラットフォーム固有の機能を設定できます。

■ AMD Overclocking



このサブメニューでは、AMDのオーバークロック関連の設定項目が用意されています。

■ PC Health



☞ Reset Case Open Status

- ▶ Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。
- ▶ Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、Case Open フィールドに「No」と表示されます。

☞ Case Open

マザーボードのCIヘッダに接続されたPCケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、Reset Case Open Status を Enabled にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

- ☞ CPU Vcore/CPU VCORE MISC/CPU VDD18/CPU VDDIO MEM/PM VDD1V/+3.3V/+5V/PM VCC18/+12V/CPU VCORE SOC 現在のシステム電圧を表示します。

System Info.



このセクションでは、マザーボード モデルおよび BIOS バージョンの情報を表示します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時間を設定することもできます。

System Language

BIOS が使用する既定の言語を選択します。

System Date

システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

System Time

システムの時間を設定します。時間の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00:00 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセス レベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator (管理者)** として表示されます。)管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザー レベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

Plug in Devices Info

PCI ExpressおよびM.2デバイスが取り付けられている場合は、それらのデバイスに関する情報を表示します。

SPD Info

取り付けられているメモリの情報を表示します。

Multi-Theme

様々な BIOS インターフェイス・スタイルを選択できます。

80 Port Display Mode

オペレーティング・システム (OS) の起動後、マザーボードのデバッグ LED に表示される情報の種類を選択できます。ただし、電源投入時セルフテスト (POST) 中および OS が起動する前は、デバッグ LED には 80 ポートのデバッグコードが表示されますのでご注意ください。

Q-Flash

Q-Flash ユーティリティにアクセスして BIOS を更新したり、現在の BIOS 設定をバックアップしたりできます。

Boot



Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイス リストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージ デバイスの前に「UEFI」が付きます。GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 11 (64 ビット) など GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 11 (64 ビット) インストールディスクを挿入前に「UEFI」が付いた光学ドライブを選択します。

Bootup NumLock State

POST後にキーボードの数字キーパッドにあるNumLock機能の有効/無効を切り替えます。

Security Option

パスワードがシステム起動ごとに必要か、または BIOS セットアップに入る時のみに必要かを指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Administrator Password/ User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。

Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTEロゴの表示設定をします。Disabledにすると、システム起動時にGIGABYTEロゴをスキップします。

Fast Boot

Fast Bootを有効または無効にしてOSの起動処理を短縮します。

SATA Support

- ▶ Last Boot SATA Devices Only 以前の起動ドライブを除いて、すべてのSATAデバイスは、OS起動プロセスが完了するまで無効になります。
- ▶ All SATA Devices オペレーティングシステムおよびPOST中は、全SATAデバイスは機能します。

Fast BootがEnabledに設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **NVMe Support**

NVMeデバイスを有効または無効にすることができます。

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **VGA Support**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

▶ Auto 従来のオプション ROM のみを有効にします。

▶ EFI Driver EFI オプション ROM を有効にします。

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **USB Support**

▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になります。

▶ Full Initial オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。

▶ Partial Initial OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になります。

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **NetWork Stack Driver Support**

▶ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。

▶ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **CSM Support**

従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (互換サポートモジュール) を有効または無効にします。

▶ Disabled UEFI CSMを無効にし、UEFI BIOS起動プロセスのみをサポートします。

▶ Enabled UEFI CSMを有効にします。

☞ **LAN PXE Boot Option ROM**

LAN コントローラーの従来のオプション ROM を有効にするかを選択します。

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Storage Boot Option Control**

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

▶ Disabled オプションROMを無効にします。

▶ UEFI Only UEFI のオプション ROM のみを有効にします。

▶ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Other PCI Device ROM Priority**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックコントローラ以外の PCI デバイスコントローラにおいて、UEFI または従来のオプション ROM を有効にするかを選択します。

▶ Disabled オプションROMを無効にします。

▶ UEFI Only UEFI のオプション ROM のみを有効にします。

▶ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

⤵ Administrator Password

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。

⤵ User Password

ユーザー パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

注: ユーザーパスワードを設定する前に、最初に管理者パスワードを設定してください。

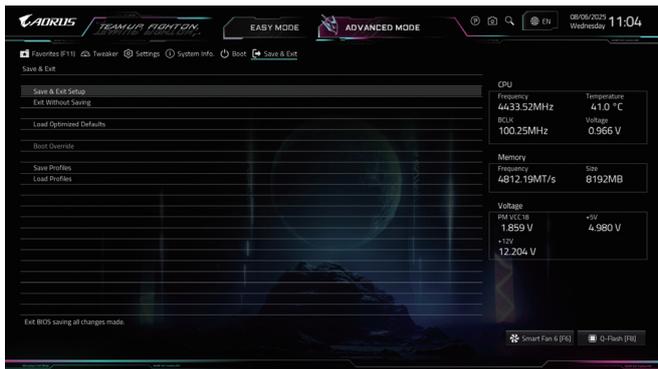
■ Secure Boot

セキュアブートを有効または無効設定することができます。CSM Support が Disabled に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

⤵ Preferred Operating Mode

BIOS セットアップに入った後に、Easy Mode と Advanced Mode のどちらに入るかを選択できます。Auto は前回使用した BIOS モードに入ります。

Save & Exit (保存して終了)



Save & Exit Setup

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

Exit Without Saving

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

Load Optimized Defaults

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

Boot Override

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes** を選択して確認します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。

Save Profiles

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1 ~ セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter> を押して終了します。または **Select File in HDD/FDD/USB** を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。

Load Profiles

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを選別することができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。**Select File in HDD/FDD/USB** を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。